

瑞雲

直方鉄工青年会

第24号



会長就任に際して

会長 井上 準一郎

昭和52年度の直方鉄工青年会会長を引き受けるに当り、私の抱負なり希望の一端を述べて、挨拶にかえさせていただきます。

昔から「創業より守成は難し」と言う言葉がありますが、云い変えれば創業者即ち最初の基礎を作った人より、その基礎の上立って成長発展及び維持して行く人の方が、より困難であると云う事です。我々鉄工青年会のメンバーの人々は痛切に感じられる事だと思います。

そこで我々青年会のメンバーは、「如何なる自分の行動をとればよいか、又「如何なる考え方を持って経営に当ればよいか、必然的に理解出来ると思います。我々青年会のメンバーはその様な感覚を常に持ち、今後共お互いに切磋琢磨しあい、又会員相互の親睦をより一層深め、各人の企業の発展に努め様ではありませんか!!

大島前会長は三つのスローガンを挙げられました。その内の「時は金なり」、「時間厳守」があります。云

い変えれば時間と云うものが如何に大切であるかということ強調されたわけですが、本年も昨年同様「時は金なり」と云う合言葉のもとに議事運営を進めていくつもりです。

又本年は青年会発足当時の原点に帰り、即ち「会員相互の練磨、親睦」と云う目標に向ってこの一年間をつとめたいと思っています。

会員の平均年齢も若返り、また中には何処の誰か知らない人が多々あると思いますが、本年中にはその様な事は皆無にし、町で会っても気軽に話せる様な雰囲気にし、尚かつ会員相互の工場にも気軽に行ける様な人間関係を作ろうではありませんか。

以上二つの目標、即ち

(1) 会員相互の練磨、親睦

(2) 時間を大切に Time and tide wait for noman
(タイム アンド タイド ウェイト フォー ノーマン)

を合い言葉に進みたいと思います。以上簡単ではありますが私の抱負なり希望を述べて挨拶と致します。

① 会員相互の練磨・親睦

② 時間を大切に

若さと勇気で 業界の発展を

経営者と健康

副会長 高野浦 篤

前会長 大 島 誠 三



鉄工青年会を去るにあたり一言述べさせていただきます。鉄工青年会が始まり入会させて頂きましたが、例会に出る事なく本当の事、青年会は二代目の遊び場として私は考えて居りました。

しかし去年一年間、皆様と親睦を深め再認識をし、過去の私の考え方が、ピントはずれであった事を実に申訳なく思っております。改めてお詫び申し上げます。

51年度を振り返ってみますと、実に楽しかった事ばかりで、本当の事「若いという事」はいいものだと思つづく考えさせられました。私はあまりにも仕事、仕事の連続で、毎日毎日がホトホト疲れて居た時期だったので、特に一年間を楽しく過ごさせて頂きました。しかし、人間楽しい事だけでは我々企業は駄目になります。

52年度は直方鉄工界も、生死を掛けて何としても生き残らねばなりません。伝統ある直方の鉄工界を、若さと勇気のある鉄工青年会の同土で力を合わせ、大飛躍をせねばならないと思います。どうか青年会の諸志、ファイト、ファイトをもって頑張ってくださいませう！！

我々若者には不可能はない。可能にせねば死ぬのである。全会員一丸となって各企業を死守しようではありませんか。

最後に皆様のご健康を祈り、今後の発展をお祈り申し上げます。頑張ってください。



「浮気のできない経営者なんてだめだ」なんて昔から良く云われる事ですが、これも云い方を変えれば、女房一人だけにめんめんとしている様じゃたかが知れているとも云える。やはり

浮気の一つなとしようかと考えるだけに、その人は精神的かつ健康でもあるわけです。

あまりたとえが良くないようですが、事業をやる上になにが大切かと聞かれると、私はなによりもまず健康が第1だと思います。健康でなければ最後まで意地を張り通すことはできないし、積極的に仕事をしようとする意欲が出るのはすべて健康であるお蔭げだと思います。生きていけばいいと云うのは体の弱いものの云う事で、難局に当面した時に、何クソという気持ちをおこす事の出来るのも健康でなければできないし、どうしても健康体でなければ事業と云うものは遂行出来ないと思います。

私も1年ほど前に10日ばかり入院した事があります。その時つくづく何もいらぬ、ただ1日も早くもとの健康な体になりたいそう云う気持ちで、ベットの中から何度手を合したか知りません。

まだまだ暗いトンネルは長い。今、何クソ、何がなんでもつきやぶってみせるぞ、誰でもぬかるみの場所はいやだ、皆んな、ガンバロー。

鉄工青年会も今年で13年目を迎えるわけですが、一つの家庭でも、企業でも、青年会でも皆んなで手を取りあって、共通の喜びを見いだせる様な仕事を目標に一路邁進すべきではないか、とつくづく思う昨今で

一般産業機械・プレス加工…製作販売

大 島 鐵 工 所

福岡県直方市知古764の1 TEL (直方)②0269・3129

あります。

52年度、会長を助け副会長として1歩も2歩も前

進するよう努力致す覚悟でいます。皆さんの御協力を切にお願い申し上げます。



※ 新設役員紹介 ※

監 事

石 橋 勲

若さで減速経済下を生き抜こう

この長い不況から何時浮揚できるだろうか。少しでも景気回復の息吹きの感じられる日は何時到来するであろうか。鶴首してその日を待つと言った気持はひとり私だけではあるまい。

政府は金利引下げと公共投資の上期前倒しと言う思い切った両輪の施策を以て景気浮揚を叫んでいるし、これをもとに夏頃には次第に景気は上向いて来ると言うのが福田総理の弁である。

然し乍ら、既にその夏に入った今日、その気配さえ窺えず、深刻な仕事不足と資金難に悩まされ乍ら、必死に毎日の仕事と戦っていると言うのが我々業界の現況なのではないだろうか。

今日ECをはじめ米国からは、日本の経済成長率は対外輸出を前提とするものであり、この際国内の景気浮揚と言う本姿に復すべきであると言う厳しい批判を受け、自動車をはじめ弱電、鉄鋼関連諸メーカーが計上する利益の内容の殆んどは輸出によるものであると言う指摘すら受けているが、これは取りも直さず内需の拡大に立ち帰れと言う意図に外ならない。

ひるがえって直方の鉄工界を見ると、鉄鋼と造船の不況と言うダブルパンチにさらされる一方、中小企業同士の受注競争の激化現象と相俟って、受注価格が製造原価を割るという現実を甘受しながら、経営維持に血のにじむような努力の毎日と言うのがお互の姿なのである。

私は斯うした状態から脱出し一日も早く正常な経営の姿を取り戻すためには、金利の再引下げを始め、補正予算による公共投資の追加、投資減税等の実施ほか単に息切れしないための施策に止まらず、真面目に努力している中小企業経営者の中からこれ以上倒産を出さないよう、内需の拡大を含む、地についた積極的景気浮揚策を採ってほしいと願ってやまない。

とは言え現況は政府施策に期待すると言う他力本願だけで済まされるものではない。

我々青年会のメンバーは過去持前の若さとバイタリティを以て、毎日最善を尽して来たにも拘らず、今日人体に譬えると病い軽症から重症に進行し、或いは回復困難な症状と言うまことに憂うべき容体と言っても差支えない。

さり乍ら私はここで、お互を取り巻く情勢が極めて深刻であり、好転はたやすく期待し得ないだけに、自分の企業の内的状況について細かく分析反省して見る時期に来ているし、それが又極めて重要なことであると思料する。

一応企業を圧迫する外的要因は暫らく措くとして

- 1、お互の企業の病気は何か（欠点）
- 2、この病気をなおす手だてがあるとすれば、それは何か（長所）

と言う真剣な分析と反省の上で、欠点の正すべきは勇敢に正し、長所はこれを更に伸ばして行くことが、症状回復への体力作り（内的条件）だと思ふのである。

潜越だが、我が社の例をとると、生産性は低い（欠点）が、幸い持ち合わせて居る技術の良さ（長所）を基に、能力主義的人事管理、目標管理の定着化、管理者層の部下指導強化等、所謂管理面を充実させることが、即受注競争力を培うことに通ずると言う私なりの確信を以て、会社幹部はもとより全従業員に訴え続けていることを皆さんに披露して参考に供したい。

私共青年会は今日の苦しみは、明日の喜びへ繋げると言う不退転の決意を堅持しつつ、最善の努力を傾注しさえすれば、必ず輝く朝が来るものと信ずるものである。

＜孔子さまでも＞ 「花がひらひらと散っている。恋しい人をいとおしく思えども、なにしろ家がちと遠い」という民謡を、孔子は評して「こんなことでは惚れようが足りぬ。惚れて通えば千里も一里じゃ」

＜詩と真実＞ アンデルセン自身も貧しい家に育ったが、彼の母もそうで、彼女はそれがつらくて、オーデンセ川の橋の下で一日泣き暮したこともあった。この話を思い出しては少年のアンデルセンも泣いたものだった。これがやがて有名な「マッチ売りの少女」の話に昇華したものである。



※ 新設役員紹介 ※

事務局長

半田 景久

鉛筆が割れない、靴の紐が結べない現代っ子の不器用さが、取りざたされている。それというのも創意、工夫の欠如であり本当に嘆かわしいことです。

すこし風が強く吹いたり、雨が降れば交通機関が停滞する。自然現象による都市機能の弱さを痛感する。我々の鉄工業界にも、にた様な現象がある。大企業

から直ちに仕事が出る会社はそうざらにない。2次下請、3次下請、又またその下請と……親企業に雨が降れば下請企業はビショビショのずぶぬれである。

この際我々企業、個人はいかなる変化にも即応出来る体質の強化を養っておかなければなりません。不器用さが心配なのは子供だけではないようです。

今期より直方鉄工青年会に事務局という部門が出来ました。会長を補佐し、何と申しませうか官房長官の役目みたいなものだそうです。小生辞書をひらくのが好きなものですから……官房長官というのは機密事項、人事、官印の保管、文書、会計、統計などの総括的事務を分担する機関と出ています。少々心細くなりましたが頑張ります。会員諸兄の御指導をお願い致します。

※ 企業紹介 ※

細田金属工業株式会社

広報委員 細田 章

直方駅より植木へ向かって車で8分、国道200号線沿にある我社は、鋳物工場と機械工場の2棟からなる非鉄金属鋳物製造会社であります。

鋳物工場では坩堝式ガス転炉(ブタンガス使用)1台と重油転炉4台を使用して、銅合金(BC、LBC A & BC、HBSC、YBSC)による丸材、ブッシュ、割メタル、ウオームギヤー、ライナー、アルミニウム軽合金(Ac3~7)の食料品製造機のカバー類、WJ1~7種のホワイトメタル軸受、それに純銅鉛製品の鋳造しております。月生産は15t程です。

機械加工工場に於ては、ポンプメタル関係の精加工を要求されるものが多いため精密旋盤4台、単能盤4台、それに正面旋盤と強力旋盤を各1台ずつ、他にボールラジアル盤やフライス盤等を設置して、径20~

1,000%程度のブッシュ類からライナー、軸、鉄類の加工に至るまで、お得意様の要望に答えられるようにしています。

主なお得意先(敬称略)は、県内では日本セメント㈱、日本セメント㈱香春製鋼所、㈱幸袋工作所、㈱戸畑製作所、県外では大晃機械工業㈱、前田機工㈱(三菱下船)等です。営業担当は自分一人なので、あっちこっち飛び回ってはいるものの、相手もさるもの、この不況時になかなかいい顔をみせてくれないのが現状です。窓口を広くとっているの、それが少しは救いになってはいますが、短納期ものがほとんどであります

昭和24年に設立して以来28年間、現在にいたるまで、技術の優秀さと納期の厳守、およびサービスの向上をモットーとして、品質および価格においても充分な競争力を有する製品を生産販売するのみならず、公害や衛生安全については特に注意や管理を怠りなくし、直方市近郊でも一早く集塵機装置を設置するなどして、50年には労働基準局より、倉田賞をいただくなどしております。

皆さん、全従業員22名が一丸となって、よりよい製品をと日々頑張っております。砲金の注文は当社へ

IBS式強力減速装置

あなたの要求条件に完全一致



株式会社

石橋製作所

あらゆる用途にご利用下さい。

- ・製鉄機械一般用
- ・運搬荷役機械一般用
- ・化学セメント機械一般用
- ・その他

直方市大字上頓野 直方工業団地

電話 (09492) ③ 3711 (代)

新入会員紹介



＜桐木龍一君＞

新入会員の挨拶で開口一番「チオス!!」の言葉を発した新人は、13年間の歴史を誇る鉄工青年会でも始めてだろうと思う。彼のファイターぶりは御覧の通りで、高校時代は野球部、大学時代は応援団と男の花道を突き進んできたスポーツマンです。

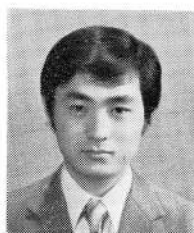
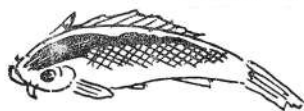
仕事に勤み(居眠りしながら)、野球に勤み(早朝から馬鹿みたいに)、酒を好み(前後不覚になる迄)女性を愛し(見境なしに)、麻雀に溺れ(家庭を顧みず)、メロドラマに涙し(柄にもなく)、家庭に於いては良きパパ、良き亭主(しかし大変な恐妻家)、非常にナイーブな男、それが「桐木龍一君」である。

彼の入会の動機は、今迄の自分の社会は企業に於ける縦の連携、野球同好会、飯塚曩祖太鼓保存会会員等に於ける自分の枠の中での横の連携だけであったが、鉄工青年会に入会し、企業人として直方と云う地域社会に於ける大きな横の連携を持つ事に依り、桐木龍一個人の人間形成に役立て、延いては企業発展への礎としたい——との事。

“羽ばたけノ桐木龍一ノ明日を目指して!”

会員諸兄、本当に愛すべき青年、そして無限の可能性を秘めるユニークな男、桐木龍一君を宜敷く御願います。

紹介会員 弘 信之



＜川原賢二君＞

もしも彼が和服を着て、手には扇を持ち、床の間を背に静かに座ると、如何にも日本舞踊の師匠と云う感じの物静かな青年。又、ス

ナックの片隅で物静かにグラスを乾す。先程迄気が付かなかったマダム視線が片隅の青年に向けられ、見る間に熱っぽく潤んで来て、彼女の意志とは逆に脚が青年の方に——。と云う情景を想像させる青年。それが川原賢二君である。

彼と付合えば、すぐに判ると思うが、人間性に深みを感じられ、話していると彼の魔力に吸い込まれそう

だ。
賢二君の父上も理論家であるが時代が違う。(賢二君の父上、御免なさい)彼は現代感覚で物事を解し、納得したならば脇目もふらず突き進む。先日も仕事とはいえ、真夜中に起床、車で一路宮崎へ、そしてすぐ様Uターン。彼もなかなかのファイターだ。

その様な彼も、ベーターベンに耳を傾け(オカキをバリバリ食べながら)、浪曲に酔い(本当は酒に)、哲学書を読み(屁をたれながら)、女性を愛し(年増を)、酒を嗜み(どぶろくを)、現在24才で花嫁募集中の事。

会員諸兄、物静かな青年、川原賢二君を宜敷く御願います。
紹介会員 弘 信之

.....
＜切りたいスイッチ＞ エジソンを主賓にしたある晩さん会で司会者がエジソンのことをながながと、人があきるほど、ほめあげた。次に立ったエジソン曰く「私はいろいろの発明をしました。私の考えだした蓄音器は、聞きたくないと思えば、いつでも止めることができます」
.....

営業目録 切削工具・測定工具・電動ホイスト・空気工具・空気圧シリンダー
軸受ユニット・歯車ホイルチェン・電動工具・継手・二次製品

澁谷機工商事

代表者 澁谷 一 憲

本社 直方市新知町4の30 TEL⑧2911 支店 直方市頓野鉄工団地入口 TEL④2827

くるま 浅田 毅

この世の中に美しく素晴らしい物は数多いが、これだけ美しく創り上げられた物があるだろうか。それは自動車である。今日まさにスーパーカーの時代である。まだ日本語さえ満足に話せない子供達が耳新しいスーパーカーの車名を口にしているのには本当に驚かされる。

想えば私がまだ小学生時代のことである。名前の知らない車、見た事もない外車が止まっていると、わざわざ運転手さんに「この車は何と云う車ですか」と聞き、忘れないうちに家まで走って帰りメモしたものである。今の小学生と何ら変わりもないことであるが、私はそれを20年も前にやっていたのだから、如何にその頃から車が好きだったかが伺える。

その当時、自動車販売店でカタログをもらってき、

それをきれいに切り抜き、2階の壁にびっしり張りつけてた事を想い出す。その時代は最新型の流行車から乗用車、トラック、三輪車、オートバイと、とにかく車と名の付く物なら何でも、かんでも張りめぐらしていた様だ。他の友達勉強している間でも、私は一生懸命外車の名前を、覚えているだけ読みあげ、それが1つ1つ増えていくのが楽しみだった。

中学に入り50ccの原付免許証をもらい、高校入学してすぐに2種の免許証を取りに行った。親爺にせびって、50ccのカブ号から始まり、次にホンダ125ccのベンリーを2台と高校時代はオートバイ、オートバイの明け暮れだった。今にして思えば両親は毎日タタハラハラの連続だったであろうと思われる。

あと10年もすれば私の長男も高校生、私がやって来た様にバイクを欲しがり、私の両親が感じていた様に私共をハラハラさせ、夕食もノドを通らず、息子の帰りを待っているのではないかと思われる。そんな先の事を考えると、気が重くなる様な昨今の私である。

昭和52年度 事業案並びに予算

	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	予 算
総務	例 会	例 会	例 会	例 会	例 会	例 会	旅 行	年 例 忘 れ 会	新 年 会	例 会	例 会	総 会	1,01,000
営 経		長谷川氏 講演会		体 テ ス ト 力		益田氏 講演会					セ ミ ナ ー 経 営		115,000
広 報			瑞雲発行			瑞雲発行					瑞雲発行		240,000
厚 生			ハ ダ カ 会		ソ ポ フ ト		運 動 会			料 同 伴 会 講 習 婦 人			270,000
そ の 他	総 務	会 員 手 帖 作 成	会 員 同 志 の 交 流	出 席 率 の 向 上	出 席 率 の 向 上	質 の 向 上	会 員 の 拡 大				通 予 備	信 費	130,000
	厚 生	毎 月 登 山 会 (家 族、社 員 共)									合 計		1,765,000

○ 52年度 新役員紹介 ○

会 長 井上準一郎 監 事 石橋 勲
副会長 内藤 博俊 “ 山本 志志
“ 高野 浦 篤
事務局長 半田 景久
会 計 堀尾 斉

総務委員会 副 高原稔 高野 稔
委員長 岩野 博之 経営委員会
副 渡辺 泰輔 委員長 村井 武久
広報委員会 副 南 重行
委員長 浅田 毅
副 西尾 英治
厚生委員会
委員長 伊藤 清治